

当別文芸の会だより

NO.32

H24・11/28 発行 (連絡先・河地良一 TEL23-2103)

「文芸交流・石狩川」充実した内容でした

晩秋から初冬を迎える11月17日(土)、13:40から白樺コミセンでの「文芸交流」には18名(1名は一般参加者)の方が参加されました。今回は郷土が生んだ作家・本庄陸男の「石狩川」について、同人(メンバー)の3人の方から提言をいただきました。司会進行は新名正勝さんが担当してくれました。

青柳文吉さんからは『本庄陸男の生涯と「石狩川」』のテーマで、先代が佐賀から当別ピトエに移住した経緯や、苦学をして東京で教職につき、世相が戦争に向かう中での執筆活動など、本庄陸男の生涯について大変興味深く話題提供をしていただきました。

続いて東前寛治さんからは『北海道の開拓と「石狩川」』のテーマで、当時の時代背景と「石狩川」について、伊達邦直主従と開拓使との関わりや、文章記述などについても分かりやすく話題提供をしていただきました。

最後に堀江三千代さんからは『「石狩川」の読后感想』というテーマで、本庄陸男が伝えなかった「石狩川」について、第1次移住者の子孫の立場から歴史をどう伝えていくかなどの話題提供をしていただきました。

休憩をはさんで参加者からは、本庄陸男の名前は知っていても町民の関心はどうかののだろうかといったことや、文化を育むまちづくり、施設づくりなどの話題が出ました。そのためにも、地道で息の長い、こうした地域での文芸活動は必要なんだなあということが実感されました。3人の提言のみなさん、司会進行の新名さん、ありがとうございました。

12月は鶴田知也の「コシャマイン記」です

次の読書会は12月8日(土)13:40~16:00 白樺コミセンです。鶴田知也は福岡県小倉市(現在の北九州市)の生まれで、大正11年に八雲に来ています。のち上京して作家活動に入り、北海道のアイヌの歴史を取り上げた「コシャマイン記」が第3回芥川賞を受賞しています。11月参加出来なかった方には資料をお送りします。

1月、2月の予定

1月19日(土)の文芸交流・読書会は、竹原一孝さんの「藤沢周平の世界」です。文庫本を予定しています。12月中に作品名を決め、お届けいたします。

2月23日(土)の文芸交流・読書会は、青柳文吉さんお薦めの「林芙美子」の作品(文庫本の中から道内紀行3編)を予定しています(今回、先にお届けします)。お楽しみに。冬に向かって「雪二モ負ケヌ・・・」ですね。

